

「テヤル」*¹ 構文と“給”構文との 対応について

— 身体部位に対して働きかける場合 —

謙 俊凱

キーワード：「身体部位テヤル」構文、身体の“給”構文、変化の結果、現実的な利益、
恩恵的感情

要 旨

本論文は日本語の「身体部位テヤル」構文と中国語の身体語彙を目的語とした“給”構文（身体の“給”構文を略称）の対応について、現実的な利益と恩恵的感情を手掛かりとして、分析を展開するものである。両者の対応が成立した理由に関しては、身体部位と持ち主の譲渡不可能の関係にあるのではなく、動作による身体部位の変化の結果が現実的な利益として動作の受け手に与えられるかどうかに関わっていると主張する。

1. 問題の提起

日中対照研究では、身体部位に対して働きかけることを表す「テヤル」構文と“給”構文との対照研究は筆者の管見の限り少ないが、以下の先行研究では主に“給”構文について論述している。

盧(1993)においては、中国語では、「NP1+給+NP2+VP+NP3」（NP1:動作主、NP2:受け手、NP3:被動者）の「給」構文に関して、「NP3がNP2の所有物である場合もこの受益構文になる。もっとも典型的なものは身体語彙の場合である」と指摘している。（例文番号は先行研究のものをそのまま使っている。）

(34) 张三给李四洗头。(盧(1993))

*1 本発表では、便宜上「テヤル」と「テヤグル」を「テヤル」で代表させることにする。

(張さんは李さんの頭を洗ってやる) (訳と下線は筆者による)

さらに、盧は「頭」が李四の「頭」で、张三が洗ったら、自然と「李四」へのサービスになり、「給」は李四が受益者の立場にあることを示す。NP3 が NP2 の所属物であるならば、総てこの構文になる」と述べている。

佐々木(1994)では、“給”構文を受益文として、「ために」受益文と“給”受益文に関して、以下の比較を行った。

- (23) a. 彼女は夫のために髪を切った ((佐々木 1994)、下線は筆者による)
b. 她给爱人剪头发了
- (24) a. 彼女は子供のために手を洗った
b. 她给孩子洗手了

(23) (24)について、「ために」受益文の場合、受益者の利益を目的として、行為者自身の髪を切ったり、手を洗ったりした、という解釈がごく自然であろう。一方、“給”受益文の場合には、それらはあくまでも受益者のものであって、行為者自身のものであってはならない」と述べている。また、以下の中国語の文に対して、「受益表現としての性質が薄れ、どこか不自然さが付きまとう」と指摘している。(括弧は筆者)

- (27) a. 彼女は夫の髪を切った
b. ?她剪了爱人的头发 (受益ではなく、中立的か被害か)
- (28) a. 彼女は子供の手を洗った
b. ?他洗了孩子的手 (受益ではなく、中立的)

楊(2009)では、以下の例文について分析を行った。

- (29) a. 我向大书院老师的房间走去，副司务正给老师剃头，这是他最拿手的。
「中日対訳コーパス」
b. 大書院の教師の部屋へゆく。そういうことの巧い副司さんが、教師の頭を剃っている。「中日対訳コーパス」

(30) *我向大书院老师的房间走去, 副司务正在剃老师的头, 这是他最拿手的。

(29) (30)について、楊(2009)は「“老师”(先生)と“头”(頭)は譲渡不可能な関係にあり、日本語では所有構造が用いられるが、中国語では受益標識が用いられている。中国語の受益標識“给”を所有標識の“的”に換えると、文全体が不自然になるか、または“老师”が受益者として解釈できなくなる。」と述べている。つまり、“给”を受益標識として、“给”構文を受益文として見なしていることがわかる。

以上の先行研究をまとめると、中国語では、「人」の身体部位に対して働きかける場合、“给”で「人」を導いて、受益の意味を表し、所有構造を用いる場合、受益の意味がなくなり、“给”構文が受益文として見なされているということがわかる。

先行研究の分析を踏まえ、以下の例文を見てみよう。

(1) 父は 息子の 頭を撫でてやる。

??父亲 给儿子 摸头。

○父亲 摸 儿子的头。
父 撫でる 息子の頭

(2) 私は 彼の 背中を摩ってやる。

??我 给他 摸背。

○我 摸 他的背。
私 摩る 彼の背中

(1) (2)の「テヤル」構文においては、「子供」と「彼」に対して、動作主の「父」「私」が「頭」と「背中」を対象として動作を行い、それらの動作によって、「子供」「彼」に恩恵をもたらすということを表す。つまり、「子供」「彼」は動作の受け手であるだけでなく、受益者でもある。さらに、「頭」「背中」が受益者「子供」「彼」の身体部位であり、「頭」と「子供」、「背中」と「彼」は譲渡不可能な関係にある。これらの文において、日本語の「テヤル」構文は成り立つのに対し、中国語の“给”構文は不自然で、成立しにくいのである。したがって、(1) (2)は先行研究の分析に反して、対応の“给”構文の座りが悪く、所有構造の文のほうが自然で

あることがわかる。また、先行研究では、“給”構文を受益文として扱っているが、その受益の意味は“給”によってもたらされるのか、あるいは文全体の意味によって現れてくるのかに関して、説明が不十分であると考えられる。したがって、そのようなタイプの「テヤル」構文と中国語の“給”構文との対応関係の成立に関して、どのような条件が必要になっているのかについてまだ検討する余地があると思われる。

2. 分析

本稿では、身体部位に対して働きかけを行い、恩恵の意味を表す「テヤル」構文^{*2}と中国語の“給”構文^{*3}との対照に関して分析を行う。便宜上、研究対象とする「テヤル」構文を「身体テヤル」構文^{*4}と呼ぶことにする。「身体テヤル」構文の構造と意味を明らかにするために、コーパスから実例を収集して、分析を行った。以下の2.1.と2.2.では、「身体テヤル」構文と“給”構文の構造と意味について説明する。

2.1. 「身体テヤル」構文の構造と意味特性

「身体テヤル」構文に関して、「[て|で]や[らりるれるっ]」と「[て|で]あげ」という正規表現によって、「中日対訳コーパス」から「テヤル」構文と「テヤル」構文をそれぞれ 773 個と 123 個抽出した。さらに、その文を判別した結果、「身体テヤル」構文と認められる文が 20 個得られた。この 20 例の中国語との対応関係は表 1 のようにまとめておく。

*2 本稿では 豊田 (1974) 山田 (2004) における非恩恵の「テヤル」構文は研究対象としない。

*3 本稿では、検討対象とする“給”構文の構造を「NP1+給+NP2+V+NP3」(NP1:動作主、NP2:受け手、NP3:動作対象)とする。

*4 身体部位とは体の部位(顔、手、足など)や体に現れるモノ(汗、唾、傷口、患部など)を指す。

表 1

日本語	対応する中国語の表現			
身体テヤル	给(gei)	为(wei)	帮(bang)	φ
20	14	2	2	2

また、以下の例から考えると、“为”（ために）“帮”（手助け、手伝い）を“给”に変えても文の意味に影響がないと思われる。例文は以下のように示す。（下線と括弧は筆者による）

- (3) お返しに、相手の体も洗ってやろうというわけだ。
 訳：他倒过来，帮（给）女人洗起了身体。
- (4) （手を）洗ってやったわけですけど、濡れた手をふこうともしないのです。
 訳：当老师帮（给）她洗完，她也不会擦一擦湿漉漉的手。
- (5) それは私が彼女を風呂へ入れてやって、体を洗ってやっていた頃…
 訳：我让她入浴，为（给）她洗身的那一段时间…
- (6) それを一番よく知っているのは私だ、私は嘗てこの背中を、毎日湯に入れて流してやったのだ。
 訳：知道得最清楚的是我，我曾经每天将她放进浴缸中为（给）她冲背。

したがって、表 1 のデータから見ると、「身体テヤル」構文は“给”構文との対応度合いが高いと言える。

(3)～(6)において、先行動詞は「洗う」「流す」といった「洗淨動詞」である。それに加えて、“给”構文と対応している「身体テヤル」構文において、「拭く」「湿す」「搔く」のような先行動詞（例(7)(8)(9)）もある。これらの動詞で表わされる動作により、身体部位に対する働きかけが行われ、その身体部位の持ち主は「動作の受け手」となる。また、それらの動作によって、「体がきれいになる」「背中がかゆくなくなる」「口が湿るようになる」といった変化がもたらされる。さらに、「テヤル」が先行動詞の後につくことによって、動作主が動作の受け手のためあるいは相手の代わりに動作を行い、その動作によってもたらされる変化が動作の受け手にとって良い結果であり、その良い結果は一種の現実的な利益として動作の受け手

に与えられ、動作の受け手が受益者になるという意味合いが読み取れる。それらの利益とともに、動作主から動作の受け手に向けて、ある種の恩恵的感情も伝わるわけである。つまり、先行動詞の動作による身体部位の変化の結果が「テヤル」の結合で現実的な利益になり、それと同時に、動作主の動作に動作の受け手に対する恩恵的感情が含まれているのである。

(7) 云われるままに、私は彼女の腕だの背中だのを暫く搔いてやりました。

訳：我遵命给她抓了一会儿胳膊和后背。

(8) お食事は、もう、けさから全然とおらず、ガーゼにお茶をひたして時々お口をしめしてあげるだけののだが。

訳：从早晨起她什么都没吃，我只是用纱布浸茶水，给她润一润嘴。

(9) 濡れ手拭でもこさえて、女の顔を拭いてやるとしようか。

訳：绞一把湿手巾给女人擦把脸吧？

一方、中国語の”给”構文以外の表現と対応している「身体テヤル」構文は以下のようである。

(10) 持主は柵の横木を隔てて、その鼻面を撫でて見たり、咽喉の下を摩ってやったりして…

訳：牛的主人隔着栅栏的横木，摸摸牛的鼻子，抓抓牛的脖子下边…⁵

(11) その固いところをぼりぼりと搔いてやると、犬は気持良さそうに目をつぶって、はあはあと息をした。

訳：我在那硬筋上搔了几把，狗于是十分舒坦似地闭目合眼，“哈嗤哈嗤”喘着气。

*5 もとの訳文は“牛的主人隔着栅栏的横木，一边摸摸牛的鼻子，一边抓抓牛的脖子下边…”である。矢澤先生から“一边、一边”が誤訳であるだろうという指摘をいただき、数人のネイティブに確認してもらった結果、“一边、一边”を取り除いた訳文がもっと適当であるという結論が出た。

(10)(11)において、「摩る」「搔く」といった先行動詞は意志動詞であり、「テヤル」との結合によって、文全体に恩恵の意味がもたらされている。すなわち、話し手（動作主）が動作の受け手に好意を持ち、動作を行うことのみ表わすのである。(3)～(9)と比べて、(10)(11)では、「摩る」「搔く」といった動作を通して、「咽喉」「固いところ」の身体部位に何らかの変化を観察することができない。つまり、動作の受け手は何か現実的な利益を得ず働きかけを受けるのみと言える。「テヤル」の介入によって、動作主は「牛」「犬」に対して、「摩る」「搔く」といった働きかけとともに可愛がったり、憐れんだりするといった恩恵的感情を表すようになるのである。

以上の分析をまとめると、「テヤル」構文では、動作による変化の結果の有無を問わず、「テヤル」があるからこそ、動作に動作主の恩恵的な感情が含まれるようになる。それによって、動作自体に恩恵の意味があり、動作の受け手も恩恵を受けると言える。また、動作による変化の結果がある場合、その結果は現実的な利益として動作の受け手に与えられるのである。

言い換えれば、(3)～(9)においては、話し手（動作主）が恩恵的感情をこめて、動作の受け手に現実的な利益を与えることを表し、(10)(11)においては、話し手（動作主）が動作の受け手に対して恩恵的感情しか表さないものである。

したがって、「身体テヤル」構文の構造と意味の特性を以下のようにまとめることができる。

- I 先行動詞は意志的動詞であり、身体部位はその動詞のヲ格目的語であること。
- II 「身体テヤル」構文においては、現実的な利益の授与とともに恩恵的感情も表すものと、恩恵的感情しか表さないものがあること。

2.2. 身体の“給”構文の構造と意味特性

中国語の“給”構文において、同じ構文構造でも文脈によって、授与、使役、受身、受益、損害など様々な用法と文型があると従来の研究で指摘されている。本節では、身体部位に対して働きかけることを表す“給”構文を対象として（便宜上身体部の“給”構文という）その構造と意味の特性を明らかにしていく。「CCL コーパス」^{*6}からこのタイプの“給”構文を50個抽出して、その一部を以下に示す。

*6 「現代中国語コーパス」CCL 北京大学中国語学研究センター 2009年

- (12) 我 給你 捶 背。
私 あなたに 叩く (あなたの) 肩
私は (あなたの) 肩を叩いてやる/あげる。
- (13) 孫茂芳 先 給他 洗 頭。
孫茂芳さん まず 彼に 洗う (彼の) 頭
孫茂芳さんはまず 彼の頭を洗ってやる/あげる。
- (14) 我 給你 头上 撓痒痒。
私 あなたに (あなたの) 頭の上 搔く
私は (あなたの) 頭の上を搔いてやる/あげる。
- (15) 他 給战士 擦 臉。
彼 戦士に 拭く 顔
彼は 戦士の顔を拭いてやる/あげる。

(12)～(15)における「給 NP2」を取り除くと、以下のようである。

- (12') 我 捶背。
私は肩を叩く。
- (13') 孫茂芳 先洗头。
孫茂芳さんはまず頭を洗う。
- (14') 我 头上撓痒痒。
私は頭の上を搔く。
- (15') 他 擦臉。
彼は顔を拭く。

(12)～(15)と比べて、(12')～(15')では、「叩く」「洗う」「搔く」「拭く」といった動作の方向はいずれも動作主自身に向かっていることがわかる。つまり、動作の方

向性は(12)～(15)と全く逆になっている。これにより、“給”の機能は動作の方向性を明示することであると言える。この説明に従えば、(1)(2)の“給”構文が問題なく成り立つと思われるが、そうではない。むしろ、身体の“給”構文における“給”は別の機能を持っていると思われる。

(12)～(15)においては、“捶背”「肩を叩く」、「洗头」「頭を洗う」、「挠头上」「頭の上を搔く」、「擦脸」「顔を拭く」といった動作によって、「肩こりが軽くなる」「顔、足がきれいになる」「頭がかゆくなくなる」「顔に汗がなくなる」といった身体部位の状態変化が起こされる。つまり、そういう動詞句に状態変化が含意されている。その変化の結果は動作とともに動作の受け手に向けてもたらされる。すなわち、“給”で導くのは動作による変化結果の受け手でもある。また、身体の“給”構文では、その変化の結果が動作の受け手の意志を問わず、動作主の判断により、動作の受け手にとって良いものであると考えられる場合、その変化結果は一種の現実的な利益として動作の受け手に与えられるということを表す。この場合、文全体に受益の意味を持たせ、受益文として成り立ち、“給”が受益者を導くと言えると考えられる。つまり、“給”だけによって受益か受損かは判断できず、その動作の変化の結果の受け手を示すだけであり、先行研究で指摘される受益標識と関係がないと思われる。

(16) 妈妈给小红洗了手，小红却不乐意。

日訳：お母さんはシャオホンの手を洗ってやったが、シャオホンはかえって嫌になってしまった。

(16)の身体の“給”構文では、「お母さん」から見ると、「洗う」を通して、「手がきれいになる」ということが「シャオホン」に良いものであり、「シャオホン」に対する現実的な利益であるのに対し、「手を洗う」は「シャオホン」にとっては嫌なことであることがわかる。同じ意味を表す「テヤル」構文も成り立つ^{*7}。つまり、動作主の意志により、その状態変化の結果が良いものと認定されている。現実的な利益がいずれも動作主の意志によるものであるところで両者は一致していると思われる。

したがって、身体の“給”構文の構造と意味の特性は以下のようにまとめられる。

*7 松下(1928)、豊田(1974)を参照されたい。

I 動作は意志的動詞によるものであり、身体部位は意志的動詞の目的語であること。

II 動作主の意志によって、動作で起こされる状態変化の結果が現実的な利益として動作主から動作の受け手に与えられる。“給”で導くのは動作の変化結果の受け手である。

2.3. 問題点の解決についての主張

問題となる文を改めて見てみよう。

(再掲)

(1) 父は 息子の 頭を撫でてやる。

??父亲 给儿子 摸头。

○父亲 摸 儿子的头。

父 撫でる 息子の頭

(2) 私は 彼の 背中を摩ってやる。

??我 给他 摸背。

○我 摸 他的背。

私 摩る 彼の背中

2.1. と2.2. において、「身体部位テヤル」構文と”給”構文の構造と意味特性をまとめておいたが、それを参照しながら、以上の(1)と(2)の例文と対応する中国語の表現について説明する。

(1)(2)の「身体テヤル」構文において、動作主の「父」「私」は「子供」「彼」に対して、「頭を撫でる」「背中を摩る」といった動作を行う。先行動詞と「テヤル」の結合によって、「子供」「彼」に対して、動作主が労わったり憐れんだりする気持ちを「子供」「彼」に伝えて、その気持ちによって、「子供」「彼」が動作主の恩恵的感情を受けように見える。つまり、「テヤル」の出現で「撫でる」「摩る」の動作自体に動作主の恩恵的感情が含まれるようになり、動作を受ける身体部位の持ち主もその恩恵的感情の受け手になるのである。それは動作による変化の結果を問わ

ず、「テヤル」によって決まるのである。

一方、2.2.節で述べたように、身体の“給”構文においては、“給”が動作の受け手を導くとともに、それは動作による変化結果の受け手でもある。(1)(2)の身体の“給”構文においては、「頭を撫でる」「背中を摩る」という動作によって、「頭」「背中」に何らかの変化が起こされないので、変化の結果がもちろん現れるはずがない。それによって、変化の結果の受け手もないわけである。すなわち、“給”の現れるのに必要な要素が欠けているので、“給”構文として成立しにくくなってしまっている。

以上の分析から、本発表では、「身体テヤル」構文は身体部位の”給”構文との対応関係において、最も中核になっているのは部分と全体の所有関係ではなく、動作による変化の結果を現実的な利益として動作の受け手に与えられるかどうかに関わっているのを主張する。

3. 現実的な利益と恩恵的感情の判別

現実的な利益と恩恵的感情の判別に関して、身体部位と共起し得る先行動詞として、10 語リストアップした。それによって、「現代日本語書き言葉均衡コーパス」(少納言)から「身体テヤル」の例文を抽出して、中国語に訳した。また、それらの訳文を 5 人の中国人ネイティブにチェックしてもらった結果は表 2 で示されている。

表 2

例文数	“給” 構文と対応する 例文数	身体部位に変化があるか否か	比率
(洗う) 43	43 ^{*8}	あり	100 %
(流す) 6	6	あり	100 %
(撫でる) 48	0	なし	0 %
(揉む) 7	4	あり	57 %
(こする) 4	4	あり	100 %
(拭く) 42	42	あり	100 %
(抜く) 4	4	あり	100 %
(叩く) 2	0	なし	0 %
(さする) 24	4	あり	17 %
(触る) 8	0	なし	0 %

その中では、動作主が動作の受け手の身体部位に対して、動作を行うことを通して、身体部位に何かよい変化を起こして、その変化の結果を現実的な利益として動作の受け手に与えるということを表す例文は以下のである。

- (17) 良子は彼の前にしゃがみこんで、汚れた手足を洗ってやった。(BCCWJ、下線は筆者、以下同)
中訳：良子俯下身，给他洗了脏的手脚。
- (18) 服部さんが、「おい、俺が背中を流してやろう。あっちへ向けよ」と、言う。
中訳：服部说：“喂，我来给你搓背，转过身去。”

*8 その中で、「毎日、患部を強酸性水で洗ってやることで相当な効果が得られています。」と「猫飼ったことないのか？」 「ばーちゃんが嫌いだったんだ。汚いってさ」 「汚いなら、洗ってやればいいんだよ」この二つの例文は単独に“給”構文と対応できないわけではないが、前後の文の繋がりから見ると、“給”がない文が簡潔であると2人のネイティブから指摘があった。本稿では、多数の意見に基づき、対応する例文と見ることにする。

- (19) おい、親分の足が冷えている。さすってやれ。

中訳：喂，老大脚冷了，给他搓搓。

- (20) 有紀、自分のシャツの裾で郷子の顔の汗を拭いてやる。

中訳：有纪用自己衬衣下沿给乡子擦脸上的汗水。

- (21) 実は以前にこの奴隷はライオンの病気を治してやったことがあって…足の刺を抜いてやったんだっかしたら、とにかく助けてやったことがあって、ライオンはその恩義に報いた。

中訳：故事是这样的，从前有个奴隶给狮子治好了病。好像是给狮子拔掉了脚上的刺，总而言之他帮助了狮子，狮子报答了他。

(17)～(21)では、「洗う」「流す」「さする」「拭く」「抜く」といった動作を通して「手足」「背中」「顔」「足」などの身体部位に「きれいになる」「暖かくなる」「さっぱりするようになる」「痛くなくなる」といった変化を起こしている。「テヤル」との結合によって、そのような変化は動作主の判断により、動作の受け手にとって良い結果をもたらされ、それが現実的な利益として動作の受け手に与えられるということを表す。すなわち、現実的な利益は良い変化によるものであると言える。このタイプの「身体テヤル」構文は“給”構文と対応していると思われる。

それに対し、変化がない「身体部位テヤル」構文は以下のようなものである。

- (22) 腰骨のあたり、優しく触ってあげて。

中訳：温柔地抚摸（她的）腰部。

- (23) 「あたし、死ぬんですか」と一日中いっているみや子さんの手を握り、「あなた、大丈夫ですよ」とさすってあげていた。

中訳：宫子整天嘀咕“我要死了吗”，我握着她的手，摸着说“你没事的”。

- (24) 兄は私の肩にもたれて、幼い子供のように泣きじゃくる。背中を軽くトントン叩いてあげるうちに落ち着くのだった。

中訳：哥哥靠在我肩上，像个小孩般哭起来。我轻轻地拍着他的背，他才慢慢平静下来。

(22)～(24)では、「触る」「さする」「叩く」といった動作によって、「腰骨」「手」「背中」に何の変化ももたらしていないのがわかる。つまり、身体部位の状態が変わっていない。変化がないと、現実的な利益が現れにくい。「テヤル」によって、文全体には誰かに対して恩恵的感情を表すのみであると言える。しかし、中国語では、“給”により、そのような恩恵的感情の表出を表すことができないと思われる。

以上の分析に基づき、「身体テヤル」構文では、現実的な利益の出現は身体部位に良い変化を起こすか否かに関わっていて、その変化を起こすと同時に誰かに対する恩恵的感情が表わされると言える。また「身体テヤル」構文には恩恵的感情しか表わさないものがあると考えられるのに対し、“給”構文は必ずしも恩恵的感情を表すわけではなく、動作による変化の結果を現実的な利益として誰かに与えるのが身体の“給”構文の中心的な意味であると思われる。

4. 今後の課題

本論文では先行研究の説明が不十分であるところに関して日本語の「身体テヤル」構文と中国語の身体の“給”構文を対照させ再検討したところ、両者の対応と非対応の原因を明らかにした。今後、研究範囲を広げ、今回対象とされない非恩恵を表す「テヤル」構文を視野に入れ、「テヤル」構文と“給”構文全体の意味特徴に関して、現実的利益と恩恵的感情という手掛かりから、検討また検証する必要があると思う。

参考文献

- 伊藤博美(2010)「授受文における受益と恩恵及び丁寧さ-「てくれる」文と「てもらう」文を中心に」『日本語学論集』6 pp.132-151
- 木村英樹(2013)『中国語文法の意味とかたち―「虚」的意味の形態化と構造化に関する研究』白帝社
- 佐々木勲人(1994)「中国語の受益文」『言語文化論集』38 pp.315-325
- 黄順花(1996)「日本語のシテヤル・シテクレル-日本語と韓国語-」『国文学解釈と鑑賞』7 pp.86-93
- 豊田豊子(1974)「補助動詞「やる・くれる・もらう」について」『日本語学校論集』1 pp.77-96
- 松下大三郎(1928)『改撰標準日本文法』紀元社

- 山田敏弘(2004)『日本語のベネファクティブ-「てやる」「てくれる」「てもらう」の文法』明治書院
- 楊凱榮(1994)「受益表現について—“給”と“てあげる・てくれる”との比較を中心に」『教養研究』1-1 九州国際大学 pp.103-124
- 楊凱榮(2009)「中日受益表現と所有構造の対照研究」『日中言語研究と日本語教育』2 pp.1-12
- 盧濤(1993)「『給』の機能語化について」『中国語学』240 pp.60-69
- 刘月华・潘文娛(1996)『現代中国語文法総覧（下）』くろしお出版

コーパス

- 中日対訳コーパス 北京日本研究センター 2003年
- 現代中国語コーパス 北京大学中国語学研究中心 2009年
- 現代日本語均衡コーパス（少納言）BCCWJ 2008年

[付記]

本論文は、2013年度西南大学「中央高校基本科研業務費プロジェクト『基于语料库的「やる」「てやる」日语授受表达句的日中翻译规则分析』(supported by “Fundamental Research Funds for the Central Universities”) 批准番号：2120120946」の段階的成果であり、2014年8月21日に中国人民大学で行われた「第六回漢日対比言語学シンポジウム」において口頭発表した内容を加筆、修正したものである。シンポジウムで有益なコメントを下された方々および研究発表の授業で貴重な意見を下さった矢澤先生、石田先生をはじめ研究室の皆さんに感謝の意を申し上げる。ただし、論考における不備はすべて筆者の責任である。

ショウ シュンガイ／西南大学外国語学院
(2014年10月31日 受理)